

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京デザイン専門学校
設置者名	学校法人原宿学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
建築専門課程	インテリアデザイン科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
デザイン専門課程	ビジュアルデザイン科（3年制）	夜・通信	2,314.5時間	80×3=240時間	
	クリエイティブアート科（3年制）	夜・通信	2,314.5時間	80×3=240時間	
	グラフィックデザイン科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
	イラストレーション科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
	マンガ科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
	アニメーション科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
	空間ディスプレイデザイン科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
	ファッションアクセサリー科（2年制）	夜・通信	1,557.0時間	80×2=160時間	
(備考) 教科外活動を除く					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバスに記載し、全在学学生および希望する保護者に配布。 同資料を常時学内に備え置き、一般に公開。
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京デザイン専門学校
設置者名	学校法人原宿学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

名簿を常時学内に備え置き、一般に公開。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宝飾メーカー代表 取締役社長	2021. 12. 1 ～2025. 11. 30	法人運営のチェック、意見
非常勤	宝飾メーカー役員	2021. 12. 1 ～2025. 11. 30	教育内容に対する 専門的な意見
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京デザイン専門学校
設置者名	学校法人原宿学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【作成・時期】 シラバス(授業計画)は、毎年度 12 月期学園運営委員会での翌年度のカリキュラム決定を受けて、12 月下旬に教務部長より各学科長に作成を依頼している。学科長は、科目担当講師(カリキュラム責任者)へ作成を依頼し、適宜調整や修正などを行い、1 月下旬に教務部長へ提出する。その後学科長と教務部長間で必要に応じて調整・修正などを行い、学校長の了解を経て決定される。シラバスには、科目名、授業時数、担当講師名、目標、授業内容とスケジュール、成績評価、使用教材などが全学科・全科目共通のフォーマットで記載されている。</p> <p>【公表】 決定したシラバスは 4 月上旬に学生に配付しガイダンスや各授業の初日などに説明している。また要求があれば誰でも閲覧できるように総合企画部に備え付けてある。公式のウェブサイトで紹介しているカリキュラムは毎年度7月頃更新され、科目とその概要、配当学年・学期、時数、授業方法などシラバスに記載された多くの情報が網羅されている。</p>	
授業計画書の公表方法	シラバスに記載し、全在生および希望する保護者に配布。同資料を常時学内に備え置き、一般に公開。
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

科目の評価については科目の目標に対して「意欲・努力、知識・理解、技術・技能」の3つの観点からその達成度を、課題作品、試験、レポート、受講態度などから5段階評価を行う。

成績評価は、科目担当講師から学級担任、学科長の判定を経て成績判定会議に諮り、学校長の決裁を得て成績が確定される。

合格となった科目については当該科目に設定された単位の取得を認定する。

【参考】

学業成績評価基準規程

第2条 学業成績評価は、授業期間中に教科目の目標に対して、教科担当者がその達成度を評価する。なお、評価するにあたっては、受講態度・出席状況をも勘案して評価する。

2. 学業成績評価にあたっての出席の基準は、原則として80%以上とする。ただし、基準以下であっても、教科目標の達成度の状況を十分考慮したうえで評価する場合がある。
3. 学業成績評価の基準および表示は、学業成績評価基準表による。
4. 合格の表記は、A, B, C, Dの4段階とする。また、不合格の場合は、Eとする。

第3条 学業成績評価でEとなった科目については、各学期末に補習・再試験などを課し、学科長が再評価する。ただし、出席不良科目は原則として不合格とし、補習・再試験は受験できない。この場合の出席不良とは50%以下をいう。

2. 出席状況において、特に考慮すべき事情がある場合は、学科長は教務部長と協議し、補習・再試験を受講させ、再評価する場合がある。
3. 補習・再試験は有料とする。

(科目の単位認定)

第4条 合格評価を受けた科目については、その科目に設定した単位の取得を認定する。

2. 補習・再試験の結果、D以上の評価を受けた場合は合格科目とし、単位の取得を認定する。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA(Grade Point Average)は、各科目の成績評価に対してそれぞれポイントで数値化したものを1科目あたりの平均値として小数点第2位までの数値で示している。GPAは成績表に表記し、学生と保護者双方に知らせており、学業成績に関する受賞者選出の基準やスカラシップ申請資格要件などで活用している。

学業成績は課題作品、試験、レポート、受講態度、出席状況などによって科目ごとに5段階で評価を行い、うちA.B.C.Dは合格評価、Eは不合格評価となっているが、

GPAはA評価を4点満点として、B評価3点、C評価2点、D評価1点とし、その科目の授業時数によって1コマ(2単位時間)を基準として算出している。

例えば2コマ授業の評価がBであれば2コマ×3点=6、3コマ授業の評価がAであれば3コマ×4点=12点となる。このように各科目のコマ数に評価点を乗じ、全ての科目の点数の和を総授業コマ数で除した数値がGPA値となる。

成績評価方法は学生便覧に明記されており、4月上旬に学生や教職員、講師、保護者(希望者)にガイダンスなどで配布・説明している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生便覧に記載し、全在学生および希望する保護者に配布。
同資料を常時学内に備え置き、一般に公開。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では「ユニバーサルデザインを視点とした、優れたデザイン力とコミュニケーション能力を持つクリエイターを育成する」という教育目標や教育方針などを踏まえた各学科の到達目標を設定している。

卒業の認定については、進級・卒業判定基準規定第3条により、当該年度の全ての科目において、合格することを条件としている。

このことは毎年4月に配布する学生便覧・シラバスを用いて、学生、教職員、講師、保護者(希望者)に対して、ガイダンスなどを通して周知している。

また公式ウェブサイトの学校基本情報内にも明記してある。

認定にあたっては、同規定第4条により、進級・卒業判定会議にて審議し、その結果を校長に報告し、校長がこれを認定する。と定めており、卒業判定会議は毎年度2月に実施している。

判定会議の構成員の一人である学科長に対しては、毎年4月に配布している冊子「学科長業務」にて周知している。

【参考】

進級・卒業判定基準規定

第3条 進級・卒業の判定基準は次のとおりとする。

- (1) 当該年度のすべての教科目において、学業成績評価が合格(D評価以上)のものは、進級・卒業を合格とする。
- (2) 学業成績評価で不合格科目があるもののうち、年間の総合出席率が70%以上ある場合は保留とし、「進級・卒業判定会議」にて別途審議する。
- (3) 保留のもので審議の結果、年度内に別途課題等を課しそれらを充足したものは、原則として進級および卒業を合格とする。ただし、進級年次にあたっては仮進級とし、別途条件を定める。卒業年次にあたっては卒業延期とする。
- (4) 上記以外のものは、進級・卒業を不合格とする。不合格になったものは留年とし、再度同学年を履修する。

第4条 進級・卒業の認定は、「進級・卒業判定会議」にて審議し、その結果を校長に報告し、校長がこれを認定する。

- 2 「進級・卒業判定会議」の構成員は、学務課長、学科長、教務部長、副校長とする。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧に記載し、全在生および希望する保護者に配布。
同資料を常時学内に備え置き、一般に公開。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京デザイン専門学校
設置者名	学校法人原宿学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年5月末日までに学内に備え置き、一般に公開。
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		建築専門課程	インテリアデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	180	660	0	0	544.5
			273 時間	660 時間	0 時間	0 時間	514.5 時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		37人	11人	4人	10人	14人	

*開設している授業の種類は1行目=住宅デザイン専攻、2行目=インテリアデザイン専攻

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 (概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0.00%)	15人 (93.75%)	1人 (6.25%)
(主な就職、業界等) 建築、商業施設、住宅、不動産開発、家具・インテリア用品、設計			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			

(主な学修成果(資格・検定等)) インテリアコーディネーター、商業施設士補
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	4人	10.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面、学業不振・学校生活不適応		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン専門課程	ビジュアルデザイン科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2608.5 単位時間/単位	177 時間	1233 時間	60 時間	0 時間	574.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
105人	88人	13人	5人	8人	13人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 (概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	0人 (0.00%)	23人 (79.31%)	6人 (20.69%)
(主な就職、業界等 広告、企業内デザイン、WEB、写真・映像、印刷、編集出版、雑貨)			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定2級・3級、情報検定、DTP検定			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	3人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振・学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門課程	クリエイティブアート科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2608.5 単位時間/単位	135 時間	1335 時間	0 時間	0 時間	574.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
105人		33人	1人	3人	2人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.14%)	6人 (42.86%)	7人 (50.00%)
(主な就職、業界等) ディスプレイ、家具・インテリア、企業内デザイン、雑貨			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758.0 単位時間/単位	135 時間	780 時間	0 時間	0 時間	484.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
330人		227人	61人	10人	14人	24人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)	

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
100人 (100%)	3人 (3.00%)	67人 (67.00%)	30人 (30.00%)
(主な就職、業界等) 広告、企業内デザイン、WEB、印刷、写真・映像、雑貨			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
230人	22人	9.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面、学業不振・学校生活不適合、経済面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門 課程	イラストレーシ ン 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	75 時間	825 時間	0 時間	0 時間	604.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		122人	32人	6人	12人	18人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)	

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
54人 (100%)	4人 (7.41%)	21人 (38.89%)	29人 (53.70%)
(主な就職、業界等) 広告、印刷、雑貨、ゲーム、編集出版、イラストレーション			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
133人	11人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面、学業不振・学校生活不適應、経済面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門課程	マンガ科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	60 時間	420 時間	690 時間	0 時間	214.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		22人	5人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0.0%)	5人 (33.33%)	10人 (66.67%)
(主な就職、業界等) アニメーション、その他			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	4人	13.33%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン専門課程	アニメーション科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	75 時間	885 時間	0 時間	0 時間	454.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	26人	8人	2人	9人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (0.00%)	5人 (62.50%)	3人 (37.50%)
(主な就職、業界等) アニメーション、その他			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	1人	3.57%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン専門課程	空間ディスプレイデザイン科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	135 時間	915 時間	0 時間	0 時間	514.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	30人	2人	2人	7人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (0.00%)	7人 (87.50%)	1人 (12.50%)
(主な就職、業界等) 商業施設、ディスプレイ・イベント、ファッション			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	3人	12.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン専門課程	ファッションアクセサリー科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1758 単位時間/単位	60 時間	360 時間	30 時間	0 時間	934.5 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	22人	6人	2人	9人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 学級担任との個人面談(1年次4月、7月、2年次4月)、学生相談・カウンセリング、ヘルプデスク制度(希望者対象の副手による個別指導)、各種復習、発展講座(エクステンションスタディ、プラス1講座)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0.0%)	8人 (88.89%)	1人 (11.11%)
(主な就職、業界等) アクセサリー			
(就職指導内容) 個人面談、模擬面接、OBOG説明会、マナー講座、デザイン業界セミナー			
(主な学修成果(資格・検定等)) 貴金属装身具技能検定、色彩検定2級・3級			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	1人	5.26%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康面		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級担任はもとより学生相談部門や留学生サポート室等が連携してきめ細かく指導を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考
インテリアデザイン科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
ビジュアルデザイン科 昼間部・3年制	180,000円	820,000円	280,000円	
クリエイティブアート科 昼間部・3年制	180,000円	820,000円	280,000円	
グラフィックデザイン科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
イラストレーション科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
マンガ科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
アニメーション科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
空間ディスプレイデザイン科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
ファッションアクセサリー科 昼間部・2年制	180,000円	820,000円	280,000円	
修学支援 (任意記載事項)				
TDAスカラシップ：経済的な支援を必要とし、かつ前年度の成績・出席が良好な学生に支給 入学特待生制度：入学希望者で将来に対する明確な目標を持ち、学習意欲が特に優れている人に学費を軽減 再進学支援制度：大学等の高等教育機関卒業者や社会人の学費を軽減 留学生奨学金制度：海外からの留学生の学費を軽減				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HPで公開している https://www.tda.ac.jp/img/pdf/docs/hyoukareport2024.pdf		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 関連企業、業界団体、卒業生、保護者などが参画する学校関係者委員会を設置し、学校自己評価報告書の内容の評価や、教育内容、学校運営、施設・設備などについて、学内委員との意見交換を行っている。評価内容・意見は次年度の学校運営に役立てる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
空間デザイン関連業界役員	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	企業
広告制作関連業界役員	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	企業
デザイン制作会社役員 本校卒業生	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	企業・卒業生
近隣商店街組合員	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	地域
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HPで公開している https://www.tda.ac.jp/img/pdf/docs/kankeireport2024.pdf		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tda.ac.jp/img/pdf/docs/schoolinformation2025.pdf
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311300078
学校名 (〇〇大学 等)	東京デザイン専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人原宿学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		88 人 (-人)	80 人 (-人)	92 人 (-人)
内 訳	第Ⅰ区分	51 人	45 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	21 人	19 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅲ区分	11 人	12 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	- 人	- 人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	- 人	
	区分外 (多子世帯)	0 人	0 人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				0 人 (0人)
合計 (年間)				92 人 (-人)

(備考)

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	-人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	-人	11人
計	人	-人	12人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-人	14人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	-人	14人
計	人	-人	20人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。